

近畿最古の洋風建築

大阪市北区の商店主グループが、地元にある国の重要文化財で、近畿最古の洋風建築「泉布観」(天満橋1)の改修費を集める募金活動に乗り出している。明治天皇の宿泊や、欧州貴族の接待などに用いられた歴史的にも貴重な遺構だが、老朽化が激しく、現在はほぼ立ち入り禁止の状態。商店主らは「町衆の力で地域の宝をきれいにし、町に活気を」と意気込んでいる。

泉布観改修へ町衆一丸

泉布観はれんが造りの2階建て(延べ1078平方メートル)で、1871(明治4)年に国が造幣局の応接施設として建築。現存する洋風建築では、大阪市中央公会堂(1918年)より古く、長崎県の旧グラバー住宅(1863年)に並ぶが、老朽化が目立ってきた1995年、阪神大震災で壁に亀裂が入るなどした。

その後の調査で、震度5以上で損壊や倒壊の恐れがあると判明。床下にも震災装

泉布観(奥)修復に向け、募金活動をしている木村さん(中央)ら天満音楽祭実行委員会のメンバー(大阪市北区で)



置をつける大規模改修に約15億円が必要と試算されたが、国から移管を受けている大阪市は財政難を理由に、工事を先送りしている。

内部はシャンテリアや暖炉が設けられ、明治天皇が泊まった部屋などもあるが、現状は周囲に壁が作られ、立ち入りは禁止。毎年春、3日間だけ特別公開されるが、建物への負担を減らすため、一度の入館は約30人に限られている。

こうした中、泉布観の窮

天満の商店主ら募金活動

状を知った制服販売店経営の野村剛さん(58)ら、地域の音楽イベント・天満音楽祭を主催する商店主ら7人が「泉布観を天満から大阪を元気にするシンボルに」と結束。10月に開いた音楽祭で募金箱を置くなどし、これまでに約12万円を集め、市に寄付した。音楽祭実行委員長の住職・木村啓良さん(61)は「母が女学生時代、裁縫の授業が泉布観であったと聞いた。誰でも見られる施設にして、人を呼び込みたい」と話す。

一方、市は当面、外観や庭園の整備(約1億円)を行いたい考えで、市ゆとりとみどりの振興局の山本歩・博物館群運営担当課長は「地域の支援はありがたい。歴史ある建造物なので、有意義な活用法を考えたい」としている。

募金の問い合わせは、野村さん(090・3966・9910)へ。